

消化器がん検診用語集第3版（2019）発刊のご挨拶

日本消化器がん検診学会では、これまで2回にわたり用語集を発刊致しております。最初のものは、日本消化器集団検診学会時代の1997年に「消化器集団検診用語集」として医学書院より出版し、2回目は2008年に「消化器がん検診用語集（改訂版）」と改名し本学会誌（第46巻3号）に掲載、同時に本学会ホームページにも載せて会員の皆様に利用していただいております。

それ以降も用語集のさらなる改訂を見据えて、作業は編集委員会内で継続しておりましたが、利益相反や倫理面の配慮など研究と論文投稿に関わる環境が厳しくなり、その対応を優先させたため、思いのほか用語集の改訂に時間を要してしまいました。

今回の改訂は、樋渡信夫先生が委員長をされていた前編集委員会の考え方と編纂作業を引き継ぐ形となります。基本方針としては、将来の改訂が容易であるように消化器がん検診に関わる用語を中心に収載し、できるだけシンプルな形態としました。そのため、前版で各用語に付けていました説明文はすべて省略しました。また、2008年当時に比してインターネット環境やブラウザの性能は格段の向上をみているため、検索機能もつけておりません。ブラウザなどの検索機能を利用させていただきたいと存じます。

しかし、学問としての消化器がん検診領域は、社会医学、臨床診断学、上部・下部消化管、肝胆膵のスクリーニングとそれに関わる臨床医学など広範な領域となっています。また胃癌のリスク分類や大腸CT検査など2008年当時には馴染みのなかった考え方も現れてきました。今回の改訂でこれら全てを網羅できたか、甚だ心許ないところもあります。会員の皆様の忌憚ないご意見を頂戴できれば幸いです。

今回の改訂は樋渡信夫先生をはじめとする前編集委員会の先生方ならびに現編集委員会の先生方が公務多忙のなか時間を割いて、弛まぬ編集作業を継続していただいた結果です。先生方の熱意がなければ完成をみることはできませんでした。また、委員から上がってくる膨大な原稿を根気よく整理し、誤字脱字、スペルミスなど細かなところまで確認して下さった学会事務局の献身的な作業にも頭が下がる思いです。改めて本改訂に関わって下さった多くの皆様のご尽力に深謝申し上げます。

最後に予定を大幅に遅れたにも関わらず温かく編集委員会の活動を支持して下さった渋谷大助理事長にお詫びとお礼を申し上げます。

本書が会員の皆様の学会発表、論文作成の一助になれば幸いです。

令和元年10月吉日

日本消化器がん検診学会 編集委員会（兼用語委員会）
委員長 西田 博